

エコミュージアムにおける社会的役割と住民参加の
あり方に関する考察：
フランスにおけるエコミュージアムの現状について

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2015-06-22
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 石川, 宏之
	メールアドレス:
URL	所属:
	http://hdl.handle.net/10297/8728

エコミュージアムにおける社会的役割と住民参加のあり方に関する考察 —フランスにおけるエコミュージアムの現状について—

A Study of Social Role and Inhabitants' Participation in Ecomuseum Activities —The Present Ecomuseum Condition of France—

石川 宏之*

Hiroyuki ISHIKAWA

The aim of this study is to manifest the relationship between inhabitant's participation with museum activities and social role at ecomuseums. The ecomuseum activities is a method which represents the community life through education, creating a development project used by its heritage, and injecting a new life into its region and people.

I found three significant features of museum administration through this study which are as follows: First, the ecomuseum activities are protecting the regional heritage and exhibition of their life with a *conservateur*, and enhancing economic growth through cultural tourism. Next, the education is provided through an action of exhibition in which the ecomuseum takes partners with people. Then, the ecomuseum accepts partners from universities, private enterprises and municipalities.

In accordance to the results of these investigations, I believe that the following four issues need to be discussed so that ecomuseums will be realized in the future. First, they should make a plan to preserve its heritage with a specialist, *conservateur*. Second, they should cooperate with the inhabitants so that they can take part in museum activities. Third, they should cooperate with the surrounding community and municipality, when they research the regional heritage. Fourth, they should become museums which fosters responsibility and establishes the inhabitants' identity through its activities.

1.0 はじめに

1960年代後半にフランスで発祥したエコミュージアムは、地域住民によって多様な地域遺産を保全し、学習の場として地域づくりをすすめる博物館活動である。そして近年の日本でもエコミュージアムに対する意識が高まりつつあり、環境学習やまちおこし、観光などと連動して試みられつつある。しかし中には、言葉によるイメージだけが先行している場合も少なくない。¹⁾

これまでのエコミュージアムに関する既往研究としては、伝統的野外博物館との比較からその特性を考察したもの（新井，1989）や、フランス成人教育の視角からその特質を捉えたもの（岩橋，1994）などがあげられる。²⁾ 筆者もこれまでに

フランスの現地調査からエコミュージアムにおける住民参加の仕組みや手順と、地域づくりとの関係について明らかにしてきた（石川，1997・1998 a.b）。しかし、エコミュージアムの特質としてその地域や時代によって形態が異なるので、定性的な事例研究を重視してきたが、一方で、エコミュージアム全体の中で明確にその対象を位置付けることも重要であった。³⁾

そこで基礎的研究として本稿では、フランスのエコミュージアムについて、地域社会との関わりの中から住民参加のあり方や教育活動の現状を把握する。そして今後、日本でエコミュージアムを展開する際に博物館活動における社会的役割と住民参加の方法の手がかりを得ることを目的とする。

*横浜国立大学大学院・工学研究科・計画建設学専攻

1.1 研究方法

まず、エコミュージアムにおける住民参加⁴⁾のあり方や教育活動の現状を把握するために「エコミュージアムと社会博物館の連盟 (Fédération des écomusées et des musées de société)」に加盟している42のエコミュージアム⁵⁾に対して、郵送によるアンケート調査⁶⁾を実施した。設問項目では、「運営方法と職員構成」、「文化省博物館局の認定の有無」、「教育活動の実施状況」、「住民参加のあり方」、「地域社会とのつながり」の5つについて捉えた。

つぎに、ケーススタディとして連盟に加盟しているフルミ・トレロン地域・エコミュージアムを取り上げ、具体的に地域社会との関わりから住民参加の手順と仕組みや、教育プログラムの利用状況、他機関との連携協力について捉え、エコミュージアムにおける社会的役割と住民参加のあり方を明らかにしていきたい。

なお、1998年5月19日～22日に現地での聴き取り調査を行った⁷⁾。また、アンケート用紙は1998年9月8日に郵送され、10月3日までの回答数は27で、回収率は64%であった。

2.0 フランスにおけるエコミュージアムの現状

はじめに、アンケート調査の集計結果をもとにエコミュージアムの動向を考察する。

図1は、運営主体別にエコミュージアムの設立年を示したものである。これから1975年以後、アソシアシオンの運営によるエコミュージアムが増加傾向にある。このアソシアシオンとは、日本というNPO (民間非営利組織) に相当するもので、法律⁸⁾においていかなる人々やグループであっても非営利で自主的な共同体をつくることを承認され、その公的有用性も認められ、かつその活動を保証されている団体である。

したがって、住民自らがエコミュージアムを設立するためには、この運営方法を用いることになる。

2.1 エコミュージアムにおける住民参加のあり方

それでは、地域住民がその活動においてどのように参加しているのであろうか。

図2.1は設立時における住民参加の内容について館数を示したものである。多いものから順に「コレクションの寄贈」や「民族学調査」「展示企画」への参加となっている。

そして図2.2は現在携わっている住民の活動内容について館数を示したものである。多いものから順に「展示企画」、「イベント企画」と「博物館資料の収集」への参加があげられている。

現在の住民参加の館数は、設立時と比べると全体的に減っているが、「展示企画」や「イベントの企画」、「博物館資料の収集」への参加をみると少なくない。

2.2 利用者数における専門職員の在勤と教育活動の実施状況

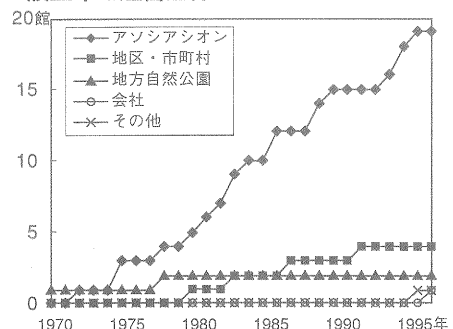
住民参加によって得られた成果が多くの人々に活用されるには、教育活動を円滑に運営できる専門職員を在勤させることや多様な教育活動を実施することが望まれる。

そこで、活用状況の一指標としてエコミュージアムの利用者数と、コンセルヴァトゥール⁹⁾の在勤状況及びエコミュージアムを博物館として承認するフランス文化省博物館局認定¹⁰⁾の有無との関係をみてみたい。また、利用者数の多い教育活動も明らかにしたい。

(1) コンセルヴァトゥールの在勤と文化省博物館局の認定状況

表1は1997年におけるエコミュージアムの利用者数を仮に10,000人未満、10,000～20,000人未満、20,000人以上の3つに分け、コンセルヴァトゥール在勤の館数とフランス文化省博物館局認

図1 設立年と運営主体



定の館数を示したものである。

コンセルヴァトゥール在勤の館数についてみると、利用者数が多くなるほどその占める割合も大きくなる。

またフランス文化省博物館局認定の館数についてみると、利用者数が多くなるほどその割合も大きくなる。

(2) 教育活動の実施状況

図3はエコミュージアムで行われている教育活動を多いものから順に並べて、さらに利用者数別に3つに分けて示したものである。

最も多く実施されている教育活動は「ビジターガイド」で、つぎに「企画展示」となっている。また「遺産学級」¹¹⁾と「巡回展」についてみると、利用者数の多いエコミュージアムの占める割合が大きい。

以上のことからエコミュージアムの利用者数は、コンセルヴァトゥール在勤やフランス文化省博物館局認定の有無と正の相関関係にあると思われる。

2.3 地域社会とのつながり

それでは、エコミュージアムがこれらの活動を通じてどのように地域社会と関わっているのだろうか。最初にエコミュージアムの活動地域を規定する単位を把握し、その地域内の課題に対するエコミュージアムの働きや、他機関との連携状況からエコミュージアムの社会的役割を明らかにしていきたい。

そこで、その地域性を把握するために仮に2つに分け、人口2,000人未満の市町村を農村的市町村、それ以上を都市的市町村としてみた。¹²⁾

図4.1は、エコミュージアムの活動地域を規定する単位について地域別に示したものであるが、「文化圏域」が最も多く、つぎに「行政区域」となっている。地域別にみると都市的市町村のエコミュージアムは「行政区域」に、農村的市町村では「文化圏域」で大きな割合を占めている。

図4.2はその活動地域内の課題について多い項目を時計回りの順に示したものであるが、最も多い課題は「文化・産業遺産の破壊の危機」である。

図2.1 設立時における住民参加（複数回答）

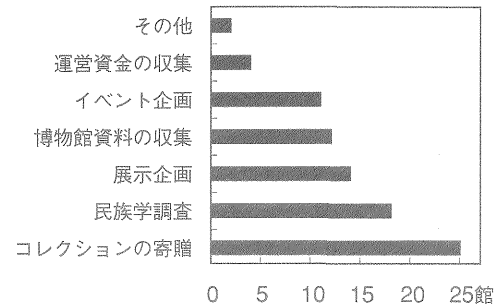


図2.2 現在の住民の活動内容（複数回答）

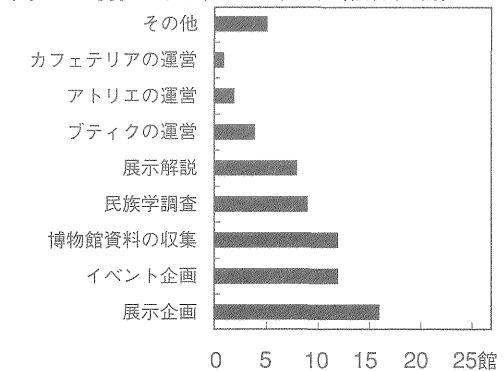
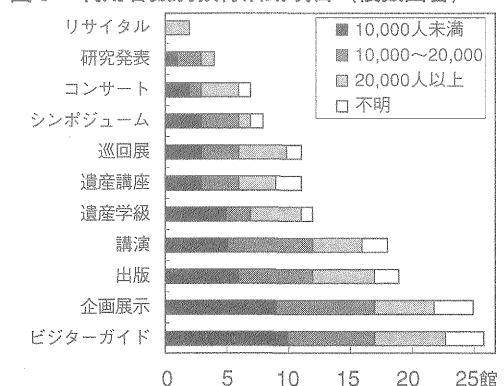


表1 コンセルヴァトゥール在勤の館数とフランス文化省博物館局認定の館数

利用者数	～10,000	10,000～20,000	20,000～	不明	合計
館数	10	8	6	3	27
コンセルヴァトゥール在勤の館数	6	7	6	2	21
文部省博物館局認定の館数	3	4	6	1	14

図3 利用者数別教育活動項目（複数回答）



地域別にみると農村的市町村の課題は「地域住民のアイデンティティの喪失」や「過疎化による人口の減少」に多く、都市的市町村では「文化・産業遺産の破壊の危機」や「地場産業の衰退」に多い。

図4.3はこれら活動地域内の課題に対しエコミュージアムの働きについて多い項目を時計回りの順に示したもので、最も多い働きは「観光業の促進」である。

地域別にみると都市的市町村のエコミュージアムは「文化・産業遺産の保護」や「地域住民のアイデンティティの育成」に、農村的市町村では「観光業の促進」や「こどもたちの環境教育」に多い。

図4.4はエコミュージアムと他機関との連携について示したものであるが、多いものから順に「博物館」、「学校」となっている。そして地域別にみると都市的市町村のエコミュージアムは「大学」、農村的市町村では「休暇コロニー」が大きな割合を占めている。

ここでエコミュージアムの社会的役割について考えてみると、農村的市町村では主として複数の市町村に渡る文化圏域を活動地域とし、過疎化による人口の減少や地域住民のアイデンティティの喪失という課題に対し、休暇コロニーなどと協力して観光業の促進やこどもたちの環境教育を実施して地域振興に努めている。

一方、都市的市町村では主に行政区域を活動地域とし、文化・産業遺産の破壊の危機や地場産業の衰退という課題に対し、大学と協力して文化・産業遺産の保護や地域住民のアイデンティティの育成に重きを置いていると思われる。

2.4 小括

フランスにおけるエコミュージアムの現状から以下の3つの重要なことが指摘できた。

① 多くのエコミュージアムは、アソシアションにより運営されており、設立時から今日に至るまで展示やイベントの企画、博物館資料の収集に住民の参加が多い。

② 利用者数の多いエコミュージアムには、専門職員であるコンセルヴァトゥールが在勤してお

図4.1 活動地域の規定単位（複数回答）

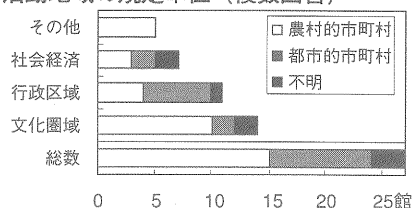


図4.2 活動地域内の課題（複数回答）

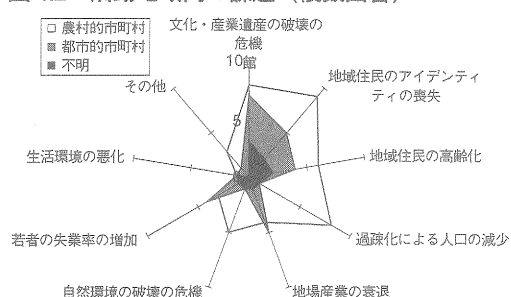


図4.3 エコミュージアムの働き（複数回答）

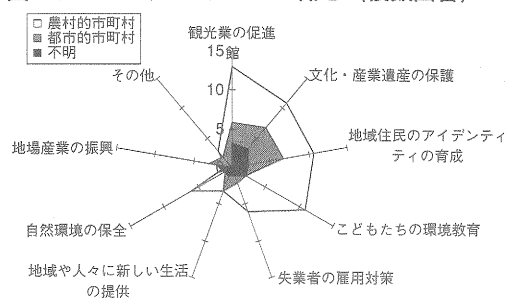
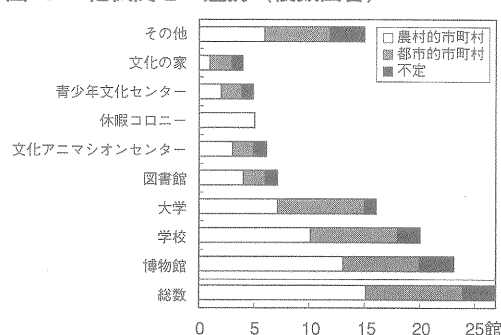


図4.4 他機関との連携（複数回答）



り、フランス文化省博物館局に認定される傾向にある。そして、遺産学級と巡回展についてみると、利用者数の多いエコミュージアムの占める割合が大きい。

③ エコミュージアムの社会的役割は、活動地域内の課題に応じて異なっており、周囲の機関と連携することでその役目を担っている。

3.0 フルミ・トレロン地域・エコミュージアムにおけるケーススタディ

以上のことから指摘できた3点について具体的に事例を取り上げて、住民参加の手順や仕組みと、教育プログラムの利用状況、他機関との連携協力について検証を行っていく。対象は、フランス北部で活動しているフルミ・トレロン地域・エコミュージアムである。その選定理由としては、アソシアションにより運営され、年間利用者数が50,000人を越え、コンセルヴァトゥールが在勤し、フランス文化省博物館局に認定されているからである。つまり、地域住民が博物館活動に参加し、多くの人々に利用されていて、活動を円滑に運営できる専門職員が在勤し、博物館としての質が保証されている機関だからである。

3.1 フルミ社会経済地域の特性と課題

このエコミュージアムの活動地域は、フランス北部のノール・パドカレ地域圏(Région Nord pas de Calais)内のノール県(Conseil Général Département du Nord)にあり、17のコミュニから成り立つフルミ社会経済地域である(図5.1)。そして南北約30km、東西約20kmの範囲に約35,000人が住んでいる。

この地域は、地方の工業都市であったが、1974年の石油ショック以後、地場産業である紡績工場が不況に陥り、産業界の衰退と過疎が進行していった。そして、地域社会の経済復興は非常に困難な状況にあった。

3.2 設立時における住民参加の手順

1978年にフルミ・トレロン地域・エコミュージアムの開設準備会は、この地域の誇りを取り戻すために地域の文化センターとの間で契約を結

び、住民の集団的記憶を呼び覚ますことを行った。

手順として、まず学校教育の中に「フルミ地域の100年間における社会経済の生活」というプロジェクトを盛り込んだ。このプロジェクトでは、約2,000名の児童に「あなたのお父さんやおじいさんがどのような仕事をしていたか」を問いかけて、約1,300の返答を集めた。そして、子どもたちから収集された資料(19世紀の労働者帳や、紡績・硝子業界の製造方法の本など)、写真(仕事場・家族)、生活用品、仕事に使われた器材を15カ所の小学校の文化祭で展示した。

つぎに、老人クラブの人々に自分たちの歴史を語ってもらいドキュメントを作成した。また、その中にこの地域の民謡や方言も収録した。さらに開設準備会は、これまでの成果をフルミの毛織物工場内に展示した。¹³⁾

このような活動によってエコミュージアムの考えが周囲に広まる状況の中で開設準備会は、国や地方自治体と連携しながら3年の準備期間を経て、アソシアションを運営主体とするフルミ・トレロン地域・エコミュージアムが1980年に発足した。

以上のことから設立時における住民参加とは歴史の証言者として調査に協力する仕方の他に、専門職員と協同で調査を行い、民族資料を収集し、それらを展示する一連の博物館活動に参加するあり方があると思われる(図5.2)。

3.3 管理運営における住民参加の仕組み

アソシアションにみる住民参加の仕組みの特徴としてその活動に携わる人は、エコミュージアムを構成する各委員会に所属することになっている。フルミ・トレロン地域・エコミュージアムの場合でも、管理組織は3つの委員会から構成されている(図5.3)。利用者委員会はエコミュージアムを定期的に利用し、その活動に協力する約150名から成る。文化・組合委員会は企業経営者代表と、労働組合代表、商工会議所代表、農業会議所代表、手工芸会議所代表、文化部門代表から構成されている。出資者委員会はエコミュージアムの予算を審議し、運営や管理を監査する省庁の代表

者から成っている。¹⁴⁾

そして理事会は各委員会の代表者18名から構成され、事務局をつくり執行部を設置する。執行部は、科学部門(3人)、渉外部門(9人)、コミュニケーション・マーケティング部門(33人)の3つから構成されている。¹⁵⁾ また、理事会で決まったことをボランティアと一緒に研究・修復・展示会・ガイド・発刊などの事業を遂行している。

このように住民参加には管理に直接携わる場合や、事業運営に協力するボランティアなどのあり方がある。

3.4 教育活動における学校団体の利用状況

このエコミュージアムは、フルミにある教育センターを核として、毛織物と社会生活の博物館や、ガラス工場の博物館、ファーマン高原の家、美しい森の家など7つの博物館と3つの自然観察の小径から構成されている。そして、地域の学校に対し、フルミ社会経済地域の工業・農業・自然・宗教などを理解できるように構成された遺産学級を実施している。それは事前に専門職員と学校教師との間で話し合い、半日から1週間に及ぶ教育プログラムを組んで行なわれる。他にもエコミュージアムの教材を貸し出しており、幼稚園児から大学生対象のものまで用意されている。また、高校や大学にディレクターやコンセルヴァトールを派遣し、文化財学・民族学・社会学・観光学・経営学などの講義を行っている。

1997年利用者の中で学校団体の占める割合は全体の48%であり、その内訳は小学生が30%、高校生9%、中学生5%、幼稚園児3%、大学生1%となっている(図5.4)¹⁶⁾。

3.5 他機関との連携・協力

他機関との連携協力に関して3つのレベルがある。¹⁷⁾ まずこの地域周辺レベルでは、地域の文化センターや博物館と友好関係を持ちながら展示物の貸し借りなどを行っている。また、大学に調査研究のフィールドを提供している。

つぎにヨーロッパ近郊レベルでは、ベルギーのワロニー地域やフランスのピカルディー地域圏の

図5.1 フルミ・トレロン地域・エコミュージアムの位置

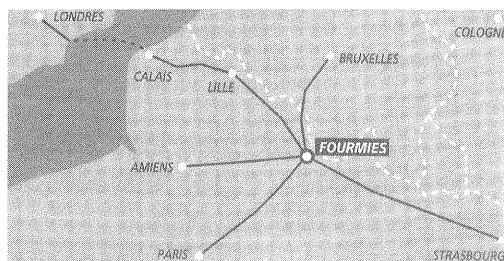


図5.2 博物館活動における住民参加の手順

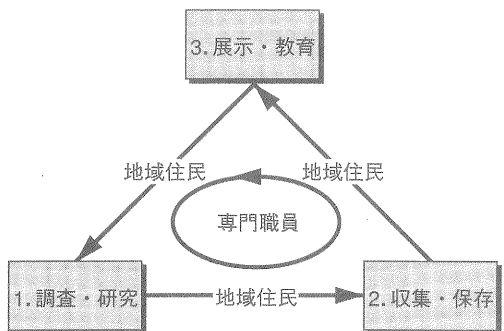


図5.3 管理運営における住民参加の仕組み

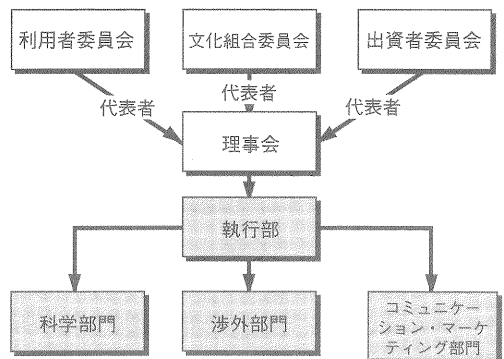
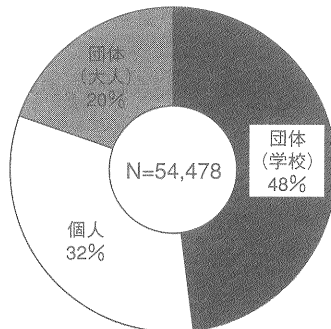


図5.4 利用者数の内訳(1997年)



博物館と交流し、近年にイギリスのケントの生活博物館 (The Museum of Kent Life, Cobtree) と姉妹関係を結び職員交換を行っている。

そしてEUレベルでは、フランス北部の3つの隣接地域で「越境協力協約」¹⁸⁾を結び、地域の文化と観光を発展させている。そのためにEUから職員の人事交流やプロモーションなどに掛かる費用の半分を助成してもらっている。

以上のことからフルミ・トレロン地域・エコミュージアムの社会的役割は、博物館活動によって地域遺産に価値を与え、住民たちに自分たちの生活の意義を再認識させることにある。特に学校教育とのつながりの中で子どもたちに環境教育を実施し、地域社会の成員として誇りを与えることと思われる。

4.0 まとめ

フランスにおけるエコミュージアムの社会的役割と住民参加のあり方について以下の3つのことがあげられる。

- ① 多くのエコミュージアムはアソシアションにより運営されており、そこに携わる住民は、歴史の証言者、博物館活動の企画への参加者、機関の管理者、事業運営に協力するボランティア、教育プログラムの利用者などである。
- ② 住民参加によって得られた成果が多くの人々によって活かされていくには、学校とのつながりを持つことである。したがって、専門職員を在勤させ博物館の質を高め、ニーズに応えた教育活動を実施することが求められる。
- ③ エコミュージアムは、その活動地域の課題に応じてその社会的役割も異なっており、周囲の機関と連携してその役目を担っている。特に、文化と観光を発展させる働きをもっているので、大学の協力を得て地域の調査研究を促進させたり、行政からの財政援助のもとで文化的地域開発を進めている。そのことから、地域遺産に価値を与え、子どもたちに地域社会の成員として誇りを与えていると考える。

最後にフランスの事例が、行政制度の違いや自

治体との関わり方の違いなど社会文化的差異によって直ちに日本のエコミュージアム運営に反映されるものではない。今後、これらのことを含めてさらに研究を深めていく予定である。

謝辞

本研究の一部は、財団法人日本科学協会の平成10年度笹川科学研究助成金の補助を受けて実施されたものである。また、本稿を執筆するに当たり大原一興助教授 (横浜国立大学工学部) ならびに西源二郎教授 (東海大学海洋研究所) に貴重な御助言を戴きました。ここに記して感謝の意を表します。

註

- 1) 倉田公裕氏は、日本のエコミュージアムを「町おこし、村おこしの一つの切り札的な扱いで、博物館としての性格を十分知悉した組織や運営となっていない感がある。博物館であると規定するなら、その博物館活動を支える学芸員を配置し、継続的な博物館活動を組織しなければならないであろう」と指摘している (倉田・矢島, 1997, p.30)。
- 2) 他にも事例研究として今井信五氏や吉兼秀夫氏、前田千世氏によりフランスのエコミュージアムの活動が報告されている。
- 3) 1986年にフランスのエコミュージアムを対象にアンケート調査が行われている。その回答数は27館で、記述形式で報告されている (Isabelle, 1987)。ただし、1998年に加盟しているエコミュージアムと比べると数や機関が異なっている。
- 4) カミュザの言う住民参加 (participation de la population) とは、エコミュージアムの管理運営の決定、博物館資料の収集や保存活動、情報提供者を含んでいる (P.Camusat pp.321-322)。よって本稿では、それを元に質問項目を組立てた。なお、付録として郵送アンケート調査票を明示してある。
- 5) 「エコミュージアムと社会博物館の連盟 (Fédération des écomusée et des musées

de société)」に加盟しているエコミュージアムの内訳は、フランスが38館、ベルギーが3館、カナダが1館である(1998年)。

- 6) 質問項目を作成するにあたって、既往調査(Isabelle, 1987)を参考にした。また、質問項目の選択肢については、その中で記述されたものをリストアップした。
- 7) 調査は、筆者が吉兼秀夫教授(阪南大学・国際コミュニケーション学部)を中心とする調査団体に参加し、通訳を交えて行った。なお、聴き取り調査の質問項目は以下の4つである。
 1. フルミ社会経済地域の歴史
 2. フルミ・トレロン地域・エコミュージアムの設立経緯と目的
 3. フルミ・トレロン地域・エコミュージアムの運営方法
 4. フルミ社会経済地域の住民や行政との関わり

これらのことをフルミ・トレロン地域・エコミュージアムのディレクターであるマルク・グジャール氏(Marc GOUJARD)をはじめ、活動に参加している地域住民3名に対して聴き取り調査を行った。なお、特にことわりのない限り3.1~3.5のエコミュージアムの活動に関する記述は、マルク・グジャール氏からの聴き取り調査によるものである。
- 8) この法律は、「アソシアシオンの契約に関する1901年7月1日法(Loi du 1^{er} juillet 1901 relative au contrat d'association)」を示す。アソシアシオンは、定款としてその名前・目的・手段・内部組織、そこで活動する人員の役割を明記し、公表することが義務づけられている。
- 9) コンセルヴァトゥールとは、フランスにおける国家資格の博物館専門職である。わが国の学芸員資格とは全く異なり、その地位は学芸員を統括する学芸部長以上に相当するといえる。
- 10) フランスの博物館は、文化省のフランス博物館局(Direction des musées de

France)の管轄下にあるものと、そうでないものに分けられる。さらに前者では、「国立博物館(Musée national)」・「指定博物館(Musée classé)」・「統制博物館(Musée contrôlé)」に分類されている(西野1995, pp.9-11)。フランスの多くのエコミュージアムは、この統制博物館(Ecomusée contrôlé par la Direction des musées de France)に属している。その統制博物館となる一つの目安として1981年に文化省から出された「組織原則(エコミュージアム憲章)」は、エコミュージアムにおける文化省の関与について述べられているものである(前田1996, pp.90-94)。

- 11) 遺産学級とは、児童や生徒に対し地域の工業・農業・自然・宗教などを理解できるように用意された教育プログラムである。
- 12) INSEE(国立統計経済研究所)の統計上の定義として街区人口2,000人未満を農村的市町村、街区人口2,000人以上で建築物の連続した複数の市町村を都市的市町村としている。(楠本・他1990, pp.96-97.)
- 13) それらの展示物は、エコミュージアムに寄贈された。現在、98%のコレクションは地域住民から寄贈されたものである。
- 14) その他に学術科学委員会は、必要に応じてフルミ・トレロン地域・エコミュージアムの学術計画を練り、決定された調査・研究活動を促進させる役目を担っている。その委員は、社会学・民俗学・歴史学・地理学・経済学・都市計画・建築学・言語学など専門とする学者20名から構成されている。
- 15) 科学部門は博物館資料の収集と研究を行ない、渉外部門はオーディオビジュアルサービス、技術サービスを行っている。そしてコミュニケーション・マーケティング部門は、顧客分析・環境教育活動の実施、アトリエや教育センターの運営、ミュージアムショップやカフェの運営なども行っている。
- 16) ECOMUSEE DE LA REGION FOURMIES-TRELON, 1997.

- 17) 他機関との連携に関しては、1996年9月21日～22日に岡山県津山市で開催されたエコミュゼ国際シンポジウムにおいて、マルク・グジャール氏が基調講演「エコミュゼとは、地域開発の道具であろうか—フランスにおけるエコミュゼと地方分権—」の中で詳しく述べられた。
- 18) 越境協力協約とは、経済的に衰退した越境地域に対してEUが政治的な支援を行っている制度である。

引用・参考文献

- 新井重三「野外博物館総論」、『博物館学雑誌』, 全日本博物館学会, 第14号, 1989.3., pp.21-46.
- ECOMUSEE DE LA REGION FOURMIES-TRELON 『STATISTIQUES』, 1997.
- 今井信五「エコミュゼをめぐるいくつかのこと①～⑥」, 『環境文化研究所報』, vol. 27～32, 1992～94.
- Isabelle Lazier 「Fiches signalétiques des écomusées」『ECOMUSEES EN FRANCE』, Agence Régionale d'Ethnologie Rhône-Alpes, 1987, pp.141-181.
- 石川宏之「博物館運営における行政の支援と住民の役割—プレス・ブルギニョン・エコミュゼの場合—」, 『Museum Study』, 第8号, 明治大学学芸員養成課程, 1997, pp.55-68.
- 石川宏之「エコミュゼの運営における管理システムと機構形態に関する考察—ル・クルゾー・モンソ・レ・ミヌ都市共同体・エコミュゼのケーススタディー」, 『日本ミュージアム・マネージメント学会研究紀要』, 第2号, 1998 a, pp.53-62.
- 石川宏之「山間部の地域づくりと博物館活動の役割に関する考察—ペイ・ド・ラ・ルドゥール・エコミュゼのケーススタディー」, 『Museum Study』, 第9号, 明治大学学芸員養成課程, 1998 b, pp.29-39.
- 岩橋恵子「フランス成人教育におけるエコミュージアムの意義と役割—アソシアシオン研究の視角から—」, 九州教育学会研究紀要, 第22巻, 1994, pp.59-66.
- 楠本侑司・藤本信義・和田幸信「フランスの農村における地域・居住環境の整備手法に関する研究」, 『日本建築学会計画系論文報告集』, 417, 日本建築学会, 1990.11, pp.87-98.
- 倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』, 東京堂出版, 1997.
- 西野嘉章「博物館学—フランスの文化と戦略—」, 東京大学出版会, 1995.
- 前田千世「エコミュゼに関する一考察—その背景と理念形成から—」, 『平成7年度修士論文お茶の水女子大学大学院人文科学研究科』, 1996.
- P.Camusat 「Une expérience concrète de participation de la population à l' écomusée de la Fourmies-Trelon」『La Muséologie』, Dunod, 1989, pp.320-322.
- 吉兼秀夫「エコミュージアムの概念と実態」, 『環境文化研究所紀要』, No.4, 1993.

(1999年11月9日原稿受理, 2000年1月18日採用決定)

付録 [アンケート票]

Présentation des organismes

I .Gestion du musée

1. Nom de l'organisme

2. Adresse

téléphone, télécopie

3. Statut

☐ Association loi 1901 ☐ Autre ()

4. Organisme de gestion

☐ Association ☐ Parc Naturel Régional ☐ Entreprise
☐ Commune ☐ Parc National ☐ Autre

5. Contrôle par la Direction des
Musées de France

☐ Non contrôlé ☐ Contrôlé

6. Date d'ouverture au public

7. Equipe

Scientifique

Administrative

Service

☐ Conservateur :

☐ Président :

☐ Animatrice :

☐ Chercheur :

☐ Directeur :

☐ Accueil :

☐ Technicien :

☐ Secrétaire :

☐ Stagiaires :

☐ Photographe :

☐ Comptable :

☐ Bénévole :

☐ Documentaliste :

☐ Gardien :

☐ Autre :

8. Aire géographique concerne

☐ Cité ($\geq 2,000$ personnes/commune)

☐ Rural ($< 2,000$ personnes/commune)

• Communes : (Superficie : km²)

• Habitants : personnes

9. Animation

☐ Expositions temporaires ☐ Visites guidées ☐ Ciné-club

☐ Expositions itinérantes ☐ Conférence ☐ Concerts

☐ Ateliers du patrimoine ☐ Exposés ☐ Récitals

☐ Classe du patrimoine ☐ colloques ☐ Publication

10. Fréquentation en 1997

_____ visiteurs

II .Relation avec la société régionale

11. Quelles sont des caractéristiques qui identifient les territoires de votre écomusée?

- ☐ Unité de culture
☐ Unité d'administration
☐ Unité de Société économique
☐ Autre ()

12. Votre écomusée a-t-il établi des collaborations avec d'autres organisations ou institutions?

☐ Non ☐ Oui ↓

- ☐ Musée
☐ Ecole
☐ Universit
☐ Bibliothèque
☐ Maison des jeunes et de la culture
☐ Maison de la culture
☐ Centre d' animation culturelle
☐ Colonies de vacances
☐ Autre ()

13. Lors de la fondation de votre écomusée, y-a-t-il eu une coopération de la part de la population locale?

☐ Non ☐ Oui ↓

- ☐ Participation pour l'enquête ethnologique.
☐ Donation d'objets de collection.
☐ Rassemblement des collections.
☐ Participation pour les projets d'expositions.
☐ Participation pour les projets d'événements.
☐ Rassemblement de fonds pour l'écomusée.
☐ Autre ()

14. Aujourd'hui, dans votre écomusée, y-a-t-il des volontaires provenant de la population locale ou un comité des usagers, qui participent aux activités de l' écomusée ?

☐ Non ☐ Oui ↓

- ☐ Participent pour l'enquête ethnologique.
☐ Rassemblent des collections d'objets.
☐ Participent aux projets d'expositions.
☐ Participent aux projets d'événements.
☐ Commentaires pour des expositions.
☐ S'occupent de la gestion de l'atelier.
☐ S'occupent de la gestion des boutiques.
☐ S'occupent de la gestion de la cafétéria.
☐ Autre ()

15. Lors de la fondation de votre écomusée quels étaient les problèmes sociaux dans votre région ?

- ☐ Décadence des industries locales.
- ☐ Augmentation du taux de chômage dans la jeunesse.
- ☐ Dépeuplement de la région.
- ☐ Vieillesse de la population locale.
- ☐ Risques de destruction des patrimoines culturel et industriel.
- ☐ Risques de destruction de l'environnement naturel.
- ☐ Disparition de l'identité de la population locale.
- ☐ Détérioration de l'environnement de la vie.
- ☐ Autre ()

16. Votre écomusée contribue-t-il à résoudre ces problèmes sociaux ?

☐ Non ☐ Oui ↓

- ☐ En promouvant des industries locales.
- ☐ En développant le tourisme local.
- ☐ En prenant des mesures pour employer des chômeurs.
- ☐ En protégeant les patrimoines culturel et industriel.
- ☐ En sauvant l'environnement naturel.
- ☐ En éduquant les enfants au respect de l'environnement.
- ☐ En fournissant une identité à la population locale.
- ☐ En renouvelant la vie de la population locale et de la région.
- ☐ Autre ()

Merci C'est gentil.